

沼津市中心市街地の都市形成過程と 景観価値の関係に関する研究

山田 莉緒¹・福島 秀哉²・福井 恒明³

¹学生会員 法政大学大学院修士課程 デザイン工学研究科 都市環境デザイン工学専攻
(〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1, E-mail:rio.yamada.7t@stu.hosei.ac.jp)

²正会員 博士(工) 株式会社上條・福島都市設計事務所
(〒160-0065 東京都新宿区住吉町10-5, E-mail:fukushima@kfa.co.jp)

³正会員 博士(工) 法政大学教授 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科
(〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1, E-mail:fukui@hosei.ac.jp)

持続可能な地域戦略に向けて、地域社会の特徴の一つである地域住民の環境認識と都市形成過程を踏まえた空間的特徴との関係性を読み解くことは今後のまちづくりにおいて重要な課題である。本研究の対象である沼津市中心市街地は、自然・歴史・観光・文化にわたる多様な地域資源を有し、それらを活用した持続可能な観光戦略・地域戦略の推進が課題となっており、ヒト中心のまちづくりを目指した様々な取り組みが行われている。本研究の目的は、沼津市中心市街地の都市形成過程と地域資源の特徴を整理し、景観価値との関係性を明らかにすることである。文献調査とアンケート調査の結果から、景観価値の分布の特徴や重層性など、景観価値と都市形成過程を踏まえた空間的特徴との関係性に関する特性を指摘した。

キーワード: 沼津市, 環境認識, 景観価値, 地域資源, 都市形成過程

1. 序章

(1) 背景と目的

近年、地域の固有性、多様性を活かした地域づくりに向けて、モノの整備だけではなく、それに伴う文化の継承、活用の重要性が指摘されている¹⁾。一方インバウンド需要の高まりやその対応に向けたインフラ整備により観光客が急増した地域などでは、環境、社会文化、経済の3点のバランスが取れた持続可能な観光戦略・地域戦略の必要性が指摘されている²⁾。しかし学術分野において、上記の指標のうち環境、経済などの定量的なデータを得やすい指標に比べ、歴史的経緯など地域性の影響が強い地域社会の特徴を把握する分析手法や、計画に反映するための知見は十分に蓄積されていない。

地域社会の特徴の一つに、地域住民の環境認識 (Environmental Cognition; EC) があげられる。地域住民のECは、ソーシャルキャピタルの醸成や近隣コミュニティの結束等への影響が指摘されるなど³⁾、地域づくりにおいて重要な要素である。地域の固有性、多様性を活かした地域づくりに向けては、ECと計画対象となる都市の空間的特徴との関係性の把握が課題となる。しかしECとその形成過程を踏まえた都市の空間的特徴との関係性を分析した研究は未だ少ない状況にある。

以上、持続可能な地域戦略に向けて、地域社会の特徴の一つとして、地域住民のECと都市形成過程を踏まえた空間的特徴との関係性を読み解くことは今後のまちづくりにおいて重要な課題である。

本研究では、ECの一つであり、住民参加型GISの手法を用いた一連の研究^{4),5)}などで、人間と環境の感情的な繋がりを検証するのに用いられている景観価値に着目する。景観価値は「場所が持つ価値の類型」と定義される。

また、本研究の対象である沼津市中心市街地は、自然・歴史・観光・文化にわたる多様な地域資源を有し、それらを活用した持続可能な観光戦略・地域戦略の推進が課題となっており⁶⁾、ヒト中心のまちづくりを目指した様々な取り組みが行われている。地域の主体的なまちづくりへの参画を通じた持続可能な地域戦略の実現に向けて、都市形成過程を踏まえた多様な地域資源の特徴と、地域住民の景観価値の認識の関係性を明らかにすることが求められている地域の一つである。特に、歴史的な地域資源に対して近年の新たなまちづくりの取り組みにより、どのような複合的な景観価値が創出されているかなどは重要な論点になると考える。

以上より、本研究の目的は、沼津市中心市街地の都市形成過程と地域資源の特徴を整理し、景観価値との関係性を明らかにすることとする。

(2) 既往研究と本研究の位置づけ

環境認識に関する既往研究の一つとして、地域愛着に関する研究の蓄積がある。澤田ら⁷⁾は、過去の居住環境や空間体験が心象風景を形成し、個人の価値観に影響することを指摘している。安藤ら⁸⁾は石垣島の赤瓦屋根の街並み景観に対し、生活経験や認識が赤瓦屋根への愛着に影響している可能性を指摘している。また福島ら⁹⁾は、景観価値と地域愛着、ならびに空間的特徴との関係性を分析した上で、地域住民が認識する景観価値の把握が、地域計画を進めるうえで重要であることを指摘している。しかし、歴史的な地域資源に対して近年の新たなまちづくりの取り組みが行われたことで、どのような複合的な景観価値が創出されるかといった都市形成の重層性を加味した分析は行われていない。

沼津市を対象とした研究では、戦災復興誌と新旧の中心市街地活性化基本計画をもとに戦災復興土地区画整理事業の目的や導入手法の特性を明らかにした研究¹⁰⁾、行政計画内における地域遺産の位置づけから地域遺産の活用が継続的に行われた要因を分析した研究¹¹⁾、沼津アーケード名店街における空間利用の変容と美観地区制度が生活に与えた影響を把握した研究¹²⁾等の蓄積がある。

本研究は多様な地域資源と都市計画による開発、近年のまちづくりの取り組みが重なる沼津市中心市街地の空間的特徴の関係性を分析する点に特徴がある。

(3) 研究手法

沼津市中心市街地の都市形成過程について文献調査により把握し、現代の空間的特徴とともに分析をおこなう。調査に使用した主な文献資料を表-1に示す。景観価値については、アンケート調査をおこなう。アンケート概要については3章で詳述する。なお本論執筆段階では、プレアンケートの位置づけとして、地域の地理や歴史、まちづくりへの理解度が高い、沼津市役所の職員を対象とした調査結果を示す。最後に景観価値と都市形成過程を踏まえた空間的特徴との関係性を分析・考察する。

2. 都市形成過程と空間的特徴

(1) 対象地の概要

沼津市は、静岡県東部に位置し、首都100キロメートル圏にある。恵まれた自然環境と優位な地理的条件のもとで、東駿河湾地域伊豆方面への交通拠点あるいは広域的な商業・文化拠点として古くからこの地域の政治、経済、文化の中心的役割を担ってきた¹³⁾。現在の中心市街地周辺には、狩野川、香貫山、千本松原などの豊かな自然と、明治期から昭和期まで皇族方がご静養された沼津

御用邸記念公園、年間166万人の観光客が訪れる沼津港、沼津のBAR文化を象徴する数多くのBAR等、自然・歴史・観光・文化にわたる多様な地域資源が存在する(図-1)。

現代では、中心市街地の活性化と再生を図るため「沼津市中心市街地まちづくり戦略」を策定し、「ヒト中心の公共空間の創出」「拠点機能の促進」「まちなか居住の促進と市街地の向上」「周辺地域資源との連携」の4つの戦略を掲げ、沼津市が持つポテンシャルを発揮させた魅力ある都市を目指した施策が検討されている¹⁴⁾。

(2) 沼津市中心市街地の都市形成過程

本節では、文献調査により沼津市中心市街地の都市形成過程を整理し、現代の空間的特徴および地域資源の形成時期を把握する。

a) 近世期

沼津の都市形成は、東海道の宿場町として栄えていた地に沼津城が築城されたことから始まる¹⁵⁾。慶長5(1600)年に東海道の整備が開始し、沼津宿が近世東海道の宿となった。安永6(1777)年に、のちに老中となる水野忠友が沼津に城地を与えられ沼津城を築城した¹⁶⁾。従来の宿場町の機能や構造に制約されながら、城と武家屋敷が建設されたため、宿場町と城下町の二つの機能を有した地となった¹⁷⁾。

表-1 使用した主な文献資料

No.	著者：文献・資料名称	発行年
1	沼津市史編さん委員会：沼津市史 通史編 近世	2006
2	沼津市史編さん委員会：沼津市史 通史編 近代	2007
3	沼津市史編さん委員会：沼津市史 通史編 現代	2009
4	沼津市史編さん委員会：沼津市史 通史別編 民俗	2009
5	沼津市誌編纂委員会：沼津市誌 上巻	1961
6	沼津市誌編纂委員会：沼津市誌 中巻	1961



図-1 沼津市中心市街地の空間的特徴と地域資源

狩野川は灌漑の用水として農地を潤し、さらに水運の要路としても商取引を支えていた。狩野川右岸側には魚市場や伊豆通いの定期船が設けられ、当時は狩野川河岸そのものが港の役割を果たしていた¹⁸⁾。

また、駿河湾沿いに生えていた松林は住まいと耕地を潮風から守る役割を果たしていたが、天正8（1580）年に、武田氏と北条氏による駿河湾海戦により千本松原の松は切り払われた¹⁹⁾。その後、千本山乗運寺の開祖・増誉上人が松苗を1本ずつ植えたことで松原が復活した。

b) 明治期から戦前期

明治時代になると、大磯に日本で最初の海水浴場が開設された²⁰⁾。その翌年に沼津でも千本浜と牛臥山に海水浴場が開設された²¹⁾。

また東海道線の開通により、明治22（1889）年に沼津駅が開設された²²⁾。これに伴い、沼津城の土手や堀を埋め立て、大通りが整備されて、城を中心とした街並みが駅を核にした街並みへと変貌した²³⁾。鉄道開通後には沼津町の戸数も増えた²⁴⁾。鉄道の開通で人や物の流れが変わり、沼津駅を中心にした交通・運輸網が発達した²⁵⁾。

東京―沼津間の交通利便性が向上すると、沼津の風景・気候の良さから、避暑・避寒・保養地として急速に知名度が向上した²⁶⁾。明治26（1893）年には島郷に御用邸が造営され、同年7月には当時の皇太子（大正天皇）が行啓になって以来、年々皇族方が滞留した²⁷⁾。昭憲皇太后は沼津滞在中に各所へ出かけたが、特に千本松原の逍遥を楽しんだことから沼津公園の設置の話が起り、明治41（1908）年8月に開園式が行われた²⁸⁾。

沼津の魚市場は、狩野川右岸側に漁船をつけて開かれていたが、狩野川は土砂の堆積が多いため、漁船の大型化などに対応できていなかった²⁹⁾。この状況に対し、将来に危機感を覚えた鮮魚商の有志が大正末期から用地買収や工事申請などを行った³⁰⁾。その結果、昭和8（1933）年に狩野川河口でドック式泊地の開削が着手され、昭和12（1937）年に沼津港内港が竣工した³¹⁾。その後は、旅客、諸物産の海上輸送が活発となり、運送業者も集結した³²⁾。

c) 戦後期

第二次世界大戦により、沼津市は空襲に見舞われ、当時の中心市街地の大半が焼失した³³⁾。戦後には戦災都市に指定され、戦災復興都市計画により、大規模な道路整備や区画整理が行われた³⁴⁾。

昭和30年代後半からは、多くの都市公園が設置された。昭和36（1961）年には、明治41（1908）年に開設された沼津公園を含む30.0haを告示して千本浜公園が開設された。昭和44（1969）年には、皇族方の保養地だった沼津御用邸が廃止され、昭和45（1970）年には沼津御用邸記念公園として開園した³⁵⁾。さらに昭和49（1974）年には、

沼津御用邸記念公園内の本邸跡に歴史民俗資料館が開館した³⁶⁾。また、昭和45（1970）年には沼津城の跡地に中央公園も開園した³⁷⁾。

昭和40年代になると、一般貨物の取扱量の増加により、船舶が大型化し沼津港内港は手狭となってきた。そのため沼津港外港が計画され、昭和45（1970）年10月に完成した³⁸⁾。これより大型船の入港が可能となったため、一般貨物の取り扱いは外港が主力となった³⁹⁾。昭和43（1968）年には、港大橋が完成し、それに伴い狩野川の渡し船の運航は廃止されたが、1997年（平成9）に「我入道の渡し船」として観光用に復活した⁴⁰⁾。

(3) 近年行われている事業や取り組み

近年、中心市街地の活性化と再生を図るため「沼津市中心市街地まちづくり戦略」が策定され、様々な事業や取り組みが行われている。具体的には、沼津駅周辺を一体的に再開発する「沼津駅周辺総合整備事業」や、狩野川右岸の階段堤を利用したイベント活用に取り組む「かのがわ風のテラス」等である。他に、中央公園を「THIS IS NUMAZU」や「週末の沼津」等の様々なイベント会場として活用する動きもみられる。他にも、沼津港では、「沼津港港湾振興ビジョン」が策定され、展望機能を備えた日本最大規模の大型航路水門「沼津港大型展望水門（びゅうお）」や沼津港深海水族館等が開設された⁴¹⁾。また沼津御用邸記念公園では、茶会や皇室写真展等の毎年の年間行事、近年ではBBQ等の多様なイベント活用がされている⁴²⁾。

以上より、沼津市の現代の空間的特徴は、各時代に整備された都市機能を活かしながら、新たな整備事業や取り組みを重ねて形成されてきたことがわかる。また現代においても、同様に地域資源をいかした都市の活性化を図る動きがみられる。これらの都市形成過程からみた、沼津市中心市街地の空間的特徴を図-2に示す。

3. 地域住民の環境認識

(1) アンケート調査概要

本研究としては、地域住民の景観価値の認識をはかることを目的としているが、本論執筆段階ではプレアンケートの位置づけとして、地域の地理や歴史、まちづくりの取り組みに対して理解がある沼津市役所の職員を対象として調査をおこなった。本調査を通して沼津市中心市街地に地域住民が持つ可能性が高い景観価値の特徴を概観することを試みた。具体的調査方法としては、沼津市中心市街地において景観価値を感じる場所を地図上にプロットしてもらい、その場所を選定した理由を記述する

よう要請した。用いる景観価値は既往研究^{43), 44)}を参考に、美観的価値、歴史的価値、神聖的価値、社会的価値、経済的価値、学習的価値、将来的価値、娯楽的価値、原生的価値、供給的価値、内在的価値の11種類に加え、これら以外の価値を感じる場所について網羅できるよう、その他の価値の項目を導入し、12種類の価値を設定した。各景観価値の定義を表-2に示す。

回答者属性を把握するため、この他に、性別、年齢、居住歴についても問う項目を設けた。以上の調査を行い、有効回答数15サンプルを得た。



図-2 沼津市中心市街地における現代の空間的特徴

表-2 本研究で設定した各景観価値の名称と定義

景観価値	各景観価値の定義
美観的価値	魅力的な景色や眺め、香り、音などがあると感じる重要な場所
歴史的価値	都市の歴史や、芸術や音楽などの伝統文化を学ぶことができると感じる重要な場所
神聖的価値	神聖で神秘的な価値や自然への畏怖や敬意等、精神的に特別に感じる重要な場所
社会的価値	人々の交流やコミュニティ・サービスの機会を提供していると感じる重要な場所
経済的価値	観光事業、農業、その他の商業活動等、地元の関連企業が支えられていると感じる重要な場所
学習的価値	都市や環境について学ぶことができると感じる重要な場所
将来的価値	将来の世代が現在の地域のことを知り、体験することができると感じる重要な場所
娯楽的価値	遊ぶ機会を提供していると感じる重要な場所
原生的価値	自然がそのままの状態に残されていると感じる重要な場所
供給的価値	綺麗な空気や水等の自然を提供していると感じる重要な場所
内在的価値	何か役割や機能を果たしている必要がなく、その場所の存在自体が重要だと感じる場所
その他の価値	上記指標では示せなかったその他の場所が特別である、又は価値があると感じる場所

(2) アンケート調査結果

本節では、アンケート回答者の属性と対象地での居住歴、各場所における景観価値の特徴を示す。

a) アンケート回答者の基本属性

アンケート回答者の属性と居住歴について表-3に示す。男性が9名と多いが、年齢層は20代から60代まで分散している。居住地の傾向は沼津市内が多い。

b) 各場所における景観価値の特徴

各回答者が地図にプロットした景観価値の総数は、対象範囲外への回答を除き328個であった。プロットされた景観価値全体の位置を図-3に示す。各景観価値の回答数をみると、社会的価値(58)が最も多く、次いで美観的価値(53)、娯楽的価値(41)であった。これらのデータから、景観価値として回答された場所の名称および選定理由を整理し、各場所の景観価値の特徴を把握する。

回答が集中した場所についてみると、「ある拠点を中心にその周辺を含むエリア」としての回答と、「対象が明確に特定される場所」の2種類の特徴がみられた。

「ある拠点を中心にその周辺を含むエリア」として、沼津駅周辺エリア、千本浜公園周辺エリア、狩野川周辺エリア、沼津港周辺エリアの4つのエリアがあげられる。

沼津駅周辺エリアは、沼津駅周辺総合整備事業等を通して多様な商業施設が立地しており、イベント利用だけでなく日常生活の中でも人々の交流拠点となっており、社会的価値、娯楽的価値、経済的価値が指摘された。また、今後の再開発事業が進行する様子を見られるという理由から、学習的価値、将来的価値も指摘された。

千本浜公園周辺エリアでは、千本松原と海岸線の二つの大きな自然資源により、美観的価値、原生的価値、供給的価値、神聖的価値、内在的価値、学習的価値が指摘された。また公園内にある遊具で子供が遊べることや、海水浴場が毎年開設されること、マラソン大会等のスポーツイベントが開催されることなどから、娯楽的価値、社会的価値も指摘された。

狩野川周辺エリアでは、沼津市中心市街地を流れる河川として、美観的価値、供給的価値、内在的価値、原生的価値が指摘された。近年では階段堤を利用した「かのがわ風のテラス」の取り組みによる、オープンカフェやBBQ、カヌー体験等、まちと水辺空間が一体となったイベントで活用されていることから、社会的価値、娯楽的価値が指摘された。またかつての交通手段であった「我入道の渡し船」の復活により、歴史的価値、将来的価値も指摘されている。

沼津港周辺エリアは、市内最大の観光拠点かつ産業の

表-3 アンケート回答者の属性データ

■性別	男性 9	女性 5	■年齢構成	20代 1	30代 4	40代 6	50代 2	60代 3
■現在の居住地	沼津市 12	静岡県(沼津市以外) 3	■沼津市内での居住経年	有 14	無 1			

中心地であることから、経済的価値、娯乐的価値、社会的価値、将来的価値、学習的価値が指摘された。エリア内の特定の施設としては、沼津港大型展望水門（びゅうお）、沼津港深海水族館、沼津港食堂街に対する指摘が多くみられた。沼津港大型展望水門（びゅうお）については、展望施設から見える駿河湾を含んだ街並みの景色や、展望水門自体の夜のライトアップに対し美観的価値が指摘された。

「対象が明確に特定される場所」としては、香貫山、沼津御用邸記念公園、中央公園の3箇所があげられる。

香貫山に残る自然資源について、原始的価値、内在的価値、供給的価値、神聖的価値が指摘された。またハイキングなどの活動を通じた娯乐的価値の指摘や、ハイキングをする際に自然を感じることができるといった活動をベースとする価値の指摘もみられた。また頂上から市内を一望できることにに対し美観的価値が指摘され、香陵

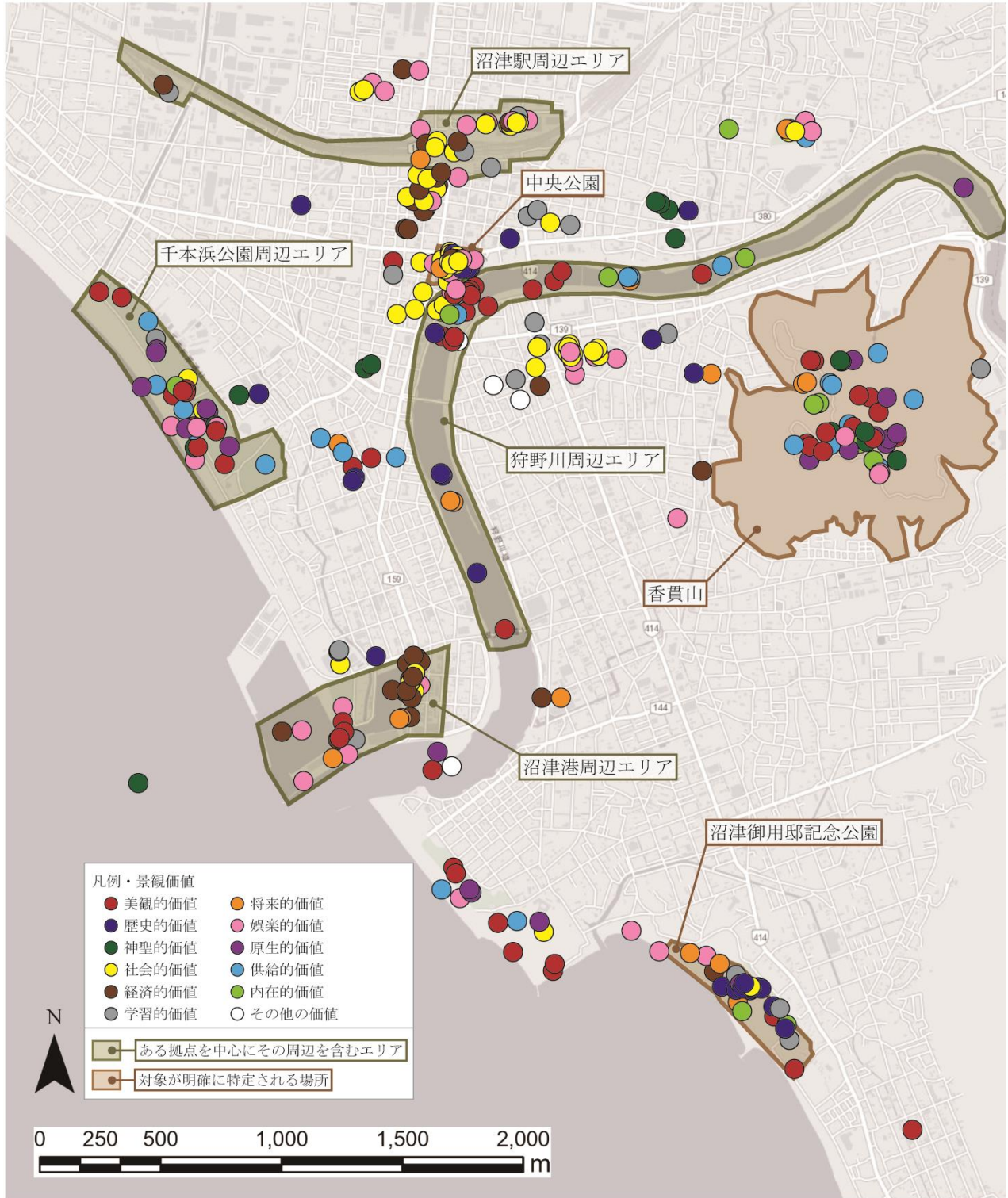


図-3 景観価値の布置状況

台に設置されている戦没者の慰霊塔に対し神聖的価値、将来的価値が指摘された。

沼津御用邸記念公園では、明治から昭和まで皇族方の保養地として利用されていた歴史的経緯から、歴史的価値、将来的価値、内在的価値、原生的価値が指摘された。御用邸記念公園内に歴史民俗資料館があることから、学習的価値、歴史的価値、将来的価値が指摘された。また、近年のイベント開催やBBQの利用等に対して、社会的価値、娯楽的価値が指摘された。

中央公園では、近年「週末の沼津」や「THIS IS NUMAZU」をはじめとした多くのイベントが開催されていることから、社会的価値、娯楽的価値、経済的価値が指摘された。また子供の遊び場や待ち合わせ場所等の日常的な利用を通して、社会的価値、娯楽的価値が指摘された。沼津城の跡地であることから歴史的価値も指摘された。さらに、以上の特徴を活かした再整備事業の予定に対して将来的価値の指摘も一部みられた。

(3) 都市形成過程と景観価値の関係性

本節では、都市形成過程と景観価値の関係性について考察する。アンケートで景観価値が指摘されたエリアおよび場所について、当初の形成時期と、その後の都市計画による開発や、近年のまちづくりの取り組みなどを整理し、各景観価値について「価値を感じる理由」の一例を記載した(図-4)。

多くの景観価値が指摘されたエリアおよび場所では、各拠点となる施設などが形成された後の、新たな整備や取り組みの実施を通して、新たな景観価値、特に社会的価値や娯楽的価値などが指摘されている。これらは歴史的なエリアや場所の特徴に加え、近年の整備事業や取り組みの効果が景観価値の認識に反映されているものと解釈することができる。

また、千本浜公園周辺エリアの海、狩野川周辺エリアの河川、香貫山の自然など、都市部にありながら、海川山の原生的価値、供給的価値、内在的価値、美観的価値といった価値が指摘されていること、それらの価値が保全されている中で、アクティビティを通じた社会的価値や娯楽的価値が重層されている点などは、沼津市中心市街地の景観価値と都市形成過程を踏まえた空間的特徴との関係性において着目すべき重要な特性と考えられる。

4. 結論

(1) 本研究の成果

多様な地域資源と都市計画による開発、近年のまちづくりの取り組みが重なる沼津市中心市街地を対象とし、

文献調査とアンケート調査から景観価値と都市形成過程を踏まえた空間的特徴の関係性を分析した。本研究で得られた成果は以下の通りである。

- ・ 沼津市の現代の空間的特徴は、各時代に整備された都市機能を活かしながら、新たな整備事業や取り組みを重ねて形成されてきたこと、現代においても同様に地域資源をいかした都市の活性化を図る動きがみられることを指摘した。(2章)
- ・ 多くの景観価値が指摘された「ある拠点を中心にその周辺を含むエリア」と、「対象が明確に特定される場所」について、各景観価値の指摘の要因を整理した。(3章)
- ・ 多くの景観価値が指摘されたエリアおよび場所では、各拠点となる施設などが形成された後の、新たな整備や取り組みの実施を通して、新たな景観価値、特に社会的価値や娯楽的価値などが指摘されていることを指摘した。
- ・ 海川山など自然の保全による景観価値とアクティビティを通じた景観価値の重層性に沼津市中心市街地景観価値と都市形成過程を踏まえた空間的特徴との関係性における着目すべき特性があることを指摘した。(3章)

(2) 今後の課題

本論の分析から得られた景観価値の特徴の分析を進めるとともに、日常的に地域を利用する地域住民を対象とした本調査を実施し、都市形成過程を踏まえた多様な地域資源の特徴と、地域住民の景観価値の認識の関係性を明らかにしていく。

謝辞

本研究のアンケート調査において、沼津市役所の職員の方々には多大なご協力を頂いた。厚く謝意を表す。

本研究はJSPS科研費 JP22H03894の助成を受けたものです。

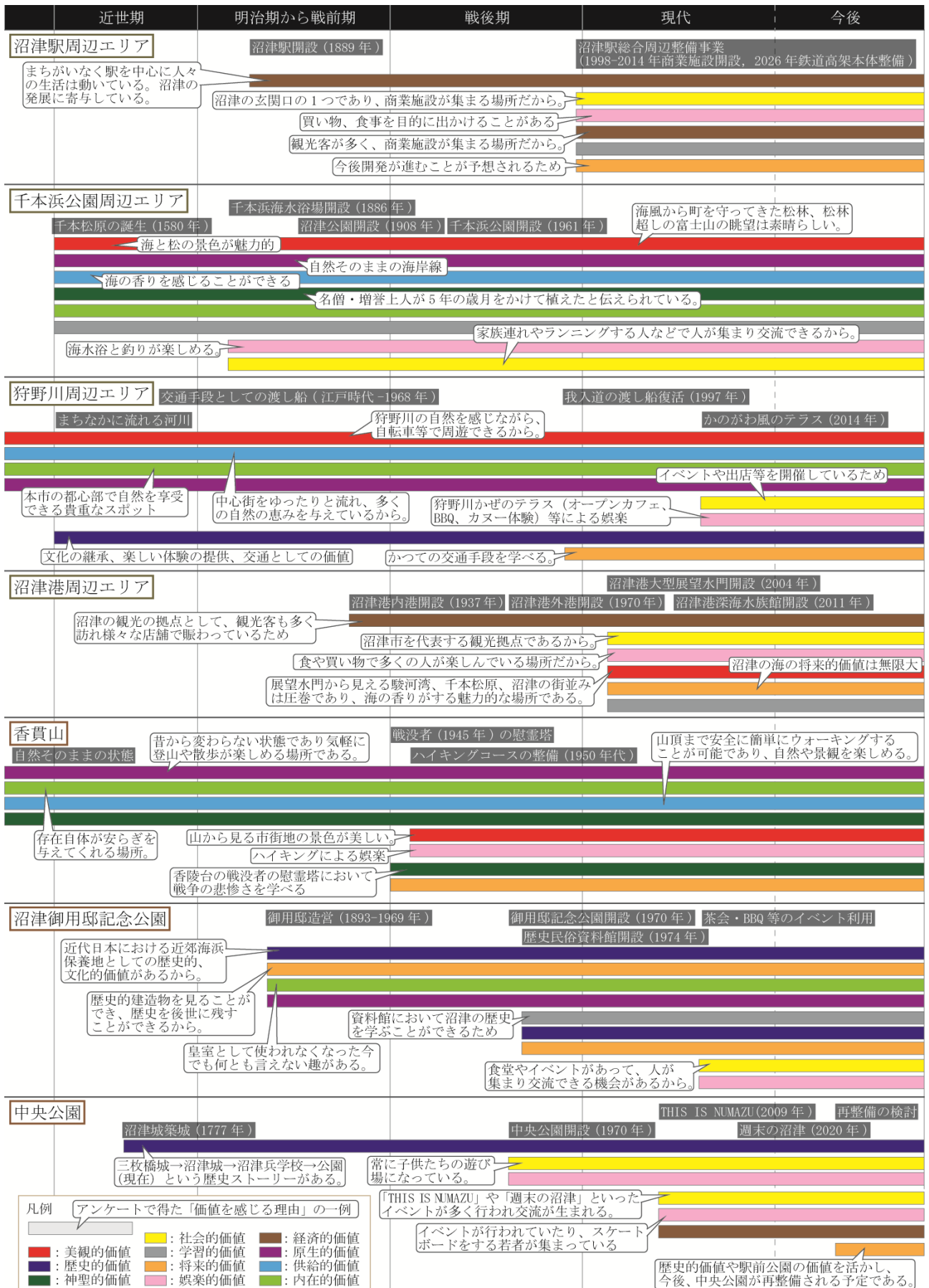


図-4 都市形成過程と景観価値の関係性

- 凡例 アンケートで得た「価値を感じる理由」の一例
- 美観的価値
 - 歴史的価値
 - 神聖的価値
 - 社会的価値
 - 学習的価値
 - 将来的価値
 - 娯楽的価値
 - 経済的価値
 - 原生的価値
 - 供給的価値
 - 内在的価値

参考文献

- 1) 国土交通省：新たな「国土のグランドデザイン」（骨子），p. 4, 2014.
- 2) 国連世界観光機関：持続可能な観光の定義，<https://unwto-ap.org/why/tourism-definition/> [最終閲覧日：2023. 08. 30]
- 3) Lewicka, M.: Place attachment: How far have we come in the last 40 years?, *Journal of Environmental Psychology*, Vol.31, pp.207-230, 2011.
- 4) Brown, G. and Raymond, C.: The relationship between place attachment and landscape values: Toward mapping place attachment, *Applied Geography*, Vol.27, No.2, pp.89-111, 2007.
- 5) Brown, G., Raymond, C. M. and Corcoran, J.: Mapping and measuring place attachment, *Applied Geography*, Vol.57, pp.42-53, 2015.
- 6) 沼津市都市計画部まちづくり政策課：沼津市中心市街地まちづくり戦略，はじめに，2020.
- 7) 澤田幸枝，土肥博至：心象風景が景観の評価構造に及ぼす影響，都市計画論文集，Vol. 30, pp. 211-216, 1995.
- 8) 安藤理沙，福島秀哉：石垣島における赤瓦屋根の街並み景観の変容と地域住民による愛着・選好の特徴，土木学会論文集中D1, Vol. 78, No. 1, pp. 64-83, 2022.
- 9) 福島秀哉，白柳洋俊，羽鳥剛史，渡部哲史：石垣島集落の空間的特徴と住民の地域認識の関係，住総研研究論文集・実践研究報告集，No. 48, 2022.
- 10) 浅野純一郎，友野雄介：戦災復興都市における中心市街地活性化事業による土地区画整理事業の計画特性に関する研究，日本建築学会技術報告集，Vol. 23, No. 54, pp. 671-676, 2017.
- 11) 柿本佳哉，津々見崇，十代田朗：地域遺産の活用と展開に関する研究 —行政を中心とした取り組みに着目して—，都市計画論文集，Vol. 54, No. 3, pp. 1320-1327, 2019.
- 12) 清水有愛，後藤春彦，馬場健誠：景観規制が商店街の商業空間と生活空間に与えた影響 —沼津アーケード名店街における美観地区制度に着目して—，日本建築学会計画系論文集，Vol. 82, No. 733, pp. 723-733, 2017.
- 13) 前掲6)，p. 12.
- 14) 前掲6)，p. 44.
- 15) 沼津市教育委員会事務局文化振興課：沼津城 城下町の発展，2018，https://www.city.numazu.shizuoka.jp/shisei/profile/rekishu/genshikara/numa_shiro.htm [最終閲覧日：2023. 08. 01]
- 16) 沼津市教育委員会：沼津城本丸跡，2002.
- 17) 沼津市誌編纂委員会：沼津市誌 上巻，沼津市，p. 167, 1961.
- 18) 沼津市史編さん委員会，沼津市教育委員会：沼津市史 通史別編 民俗，沼津市，p. 10, 2009.
- 19) 沼津市産業振興部観光戦略課：沼津観光ポータル千本松原，<https://numazukanko.jp/spot/10056>， [最終閲覧日：2023. 08. 01]
- 20) 沼津市史編さん委員会，沼津市教育委員会：沼津市史 通史編 近代，沼津市，p. 233, 2007.
- 21) 前掲20)，p. 233.
- 22) 前掲20)，p. 232.
- 23) 前掲20)，p. 232.
- 24) 前掲20)，p. 233.
- 25) 前掲20)，p. 233.
- 26) 沼津市誌編纂委員会：沼津市誌 中巻，沼津市，p. 139, 1961.
- 27) 前掲26)，p. 139.
- 28) 前掲20)，p. 239.
- 29) 静岡県交通基幹部：第1回沼津港の将来を考える有権者会議 参考資料，p. 15, 2014，<https://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/kowan/1003579/1029657.html> [最終閲覧日：2023. 08. 03]
- 30) 前掲29)，p. 15.
- 31) 前掲29)，p. 15.
- 32) 前掲29)，p. 15.
- 33) 沼津市都市計画部まちづくり政策課：第2次沼津都市計画マスタープラン，p. 6, 2020，<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/shisei/keikaku/various/toshimas/index.htm> [最終閲覧日：2023. 08. 14]
- 34) 前掲34)，p. 6.
- 35) 沼津市都市計画部緑地公園課：沼津御用邸記念公園開園50周年記念誌「みやびの風にさそわれて」，p. 38, 2020.
- 36) 沼津市教育委員会：沼津市歴史民俗資料館移転整備基本構想（案），2023，<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/shisei/commit/pubcom/r5/rekimin/index.htm>， [最終閲覧日：2023. 08. 26]
- 37) 沼津市都市計画部緑地公園課：沼津市 中央公園再整備基本方針 中央公園・未来ビジョン，p. 5, 2022，https://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sumai/park/topics/chuoukouen_saiseibi.htm [最終閲覧日：2023. 08. 14]
- 38) 前掲29)，p. 15.
- 39) 沼津通運倉庫株式会社：沼津港内港 港営業所の碑，2020.
- 40) 沼津市産業振興部観光戦略課：沼津観光ポータル 我入道の渡し船，<https://numazukanko.jp/spot/10027>， [最終閲覧日：2023. 08. 15]
- 41) 静岡県交通基幹部港湾局港湾企画課：沼津港みなとまちづくり推進計画 前半部分（～4章），はじめに，2015，<https://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/kowan/1003579/1029657.html> [最終閲覧日：2023. 08. 30]
- 42) 前掲35)，pp. 38-47.
- 43) 前掲4)，pp. 81-111.
- 44) 前掲5)，pp. 42-53.